

2018年5月18日

# 法令および定款に基づく インターネット開示事項

〔 2017年4月1日から  
2018年3月31日まで 〕

連 結 注 記 表  
個 別 注 記 表

株 式 会 社 カ プ コ ン

「連結注記表」および「個別注記表」につきましては、法令および定款第15条の規定に基づき、当社ウェブサイト（<http://www.capcom.co.jp/>）に掲載することにより株主の皆様提供しております。

## 連 結 注 記 表

### 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記

#### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数	14社	(国内)	株式会社カプトロン 株式会社ケーツ 株式会社エンターライズ
		(海外)	カプコン U. S. A., INC. カプコンアジア CO., LTD. CE・ヨーロッパ LTD. カプコン・エンタテイメント・ドイツ GmbH ビーライン・インタラクティブ, INC. ビーライン・インタラクティブ・カナダ, INC. カプコン・エンタテイメント・コリア CO., LTD. カプコン・エンタテイメント・フランス SAS カプコン・ゲーム・スタジオ・バンクーバー, INC. ビーライン・インタラクティブ・ヨーロッパ LTD. カプコン台湾 CO., LTD.

(注) 株式会社カプコン・モバイルは当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、当連結会計年度より連結の範囲から除外しております。

#### 2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用関連会社の数	1社	(海外)	ストリートファイター・フィルム, LLC
-------------	----	------	----------------------

#### 3. 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準および評価方法

###### ① 有価証券

###### その他有価証券

###### 時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定)

###### 時価のないもの

総平均法に基づく原価法

###### ② 商品および製品・仕掛品・原材料および貯蔵品

主として移動平均法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

###### ③ ゲームソフト仕掛品

ゲームソフトの開発費用(コンテンツ部分およびコンテンツと不可分のソフトウェア部分)は、個別法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

###### ① 有形固定資産 (リース資産を除く)

建物(建物附属設備を除く)は定額法、建物以外については定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については定額法を採用し、在外連結子会社については一部の子会社を除き定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物および構築物	3～50年
アミューズメント施設機器	3～20年

- ②無形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法、オンラインコンテンツについては見積サービス提供期間（2～3年）に基づく定額法を採用しております。
- ③リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。ただし、リース契約上に残価保証の取決めのある場合においては、当該残価保証額を残存価額としております。  
所有権移転ファイナンス・リース取引については、自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。
- (3)重要な引当金の計上基準
- ①貸倒引当金 売上債権および貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ②賞与引当金 従業員に対する賞与の支給に充てるため、当連結会計年度末までに支給額が確定していない従業員賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。
- (4)退職給付に係る会計処理の方法  
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。  
過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(8年)による定額法により費用処理しております。  
数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間の年数(8～14年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。
- (5)重要な収益の計上基準  
ゲームコンテンツの収益認識  
顧客に販売したゲームコンテンツのうち、未提供のゲームコンテンツについては、その収益計上を提供時まで繰延べております。
- (6)その他連結計算書類作成のための重要な事項  
消費税等の会計処理  
税抜方式によっております。

## 連結貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額 20,760 百万円  
減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。

## 連結損益計算書に関する注記

- 売上原価に含まれている収益性の低下に伴う簿価切下額は次のとおりであります。
- 10,158 百万円

## 連結株主資本等変動計算書に関する注記

1. 当連結会計年度末における発行済株式の種類および総数  
当連結会計年度末における発行済株式の総数は、普通株式 67,723,244 株であります。
2. 剰余金の配当に関する事項

### (1) 配当金支払額

決 議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基 準 日	効力発生日
2017年6月9日定時株主総会	普通株式	1,368 百万円	25 円	2017年3月31日	2017年6月12日
2017年11月6日取締役会	普通株式	1,368 百万円	25 円	2017年9月30日	2017年11月24日

- (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの  
2018年6月11日開催の第39期定時株主総会において次のとおり付議することを予定しております。

- ・ 株式の種類 普通株式
- ・ 配当金の総額 1,916 百万円
- ・ 配当の原資 利益剰余金
- ・ 1株当たり配当額 35 円
- ・ 基準日 2018年3月31日
- ・ 効力発生日 2018年6月12日

(注) 当社は 2018 年 4 月 1 日付で普通株式 1 株につき 2 株の割合で株式分割を行っております。当事業年度の期末配当につきましては、配当基準日が 2018 年 3 月 31 日となりますので、当該株式分割実施前の株式数を基準として配当を実施いたします。

## 金融商品に関する注記

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金の運用を原則として元本の償還および利息の支払いについて確実性の高い金融商品によるものとし、安全性・流動性(換金性、市場性)・収益性を考慮して行っております。

また、資金の調達については、銀行等金融機関からの借入により行っております。

デリバティブ取引は、外貨建取引の為替変動リスクおよび借入金、貸付金、利付債券等の金利変動リスクを回避するためにのみ利用し、投機目的による取引は行わない方針としております。

#### (2) 金融商品の内容およびそのリスクならびにリスク管理体制

営業債権である受取手形および売掛金は、取引先の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引の重要度に応じて、適宜与信管理に関する定め等を設け、取引先ごとに債権の期日管理および残高管理を行うとともに、重要な取引先の信用状況について定期的に把握することとしております。

当社が、投資有価証券として保有している株式は、主に業務上の関係を有する上場企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、四半期ごとに時価を確認し、適宜取締役会に報告しております。

営業債務である支払手形および買掛金、ならびに電子記録債務については、その支払期日が1年以内となっております。

借入金のうち、短期借入金は主に運転資金に係る資金調達であり、長期借入金は主に長期運転資金および設備投資資金に係る資金調達であります。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、各社が月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

### 2. 金融商品の時価等に関する事項

2018年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：百万円)

		連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
a	現金および預金	46,539	46,539	—
b	受取手形および売掛金	12,930	12,930	—
c	差入保証金	4,034	4,033	△1
	資 産 計	63,504	63,503	△1
a	支払手形および買掛金	2,625	2,625	—
b	電子記録債務	839	839	—
c	短期借入金	1,473	1,473	—
d	長期借入金	8,315	8,337	22
	負 債 計	13,254	13,277	22

(注) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

#### 資 産

a. 現金および預金、ならびに b. 受取手形および売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

c. 差入保証金

差入保証金の時価については、将来返還される金額を回収期間に応じた国債利回りで割り引いて算定する方法によっております。

#### 負 債

a. 支払手形および買掛金、b. 電子記録債務、ならびに c. 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

d. 長期借入金

長期借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映し、また、当社グループの信用状態が実行後大きく異なっていないことから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

## 1 株当たり情報に関する注記

- |               |         |
|---------------|---------|
| 1. 1株当たり純資産額  | 780円18銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 99円89銭  |

(注) 当社は、2018年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。このため、2018年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益を算定しております。

## 重要な後発事象に関する注記

### 株式分割

当社は、2018年3月6日開催の取締役会決議に基づき、2018年4月1日付で株式分割を行っております。

#### 1. 株式分割の目的

投資単位当たりの金額を引き下げることにより、当社株式の流動性の向上と投資家層の拡大を図ることを目的としております。

#### 2. 株式分割の概要

##### (1) 分割の方法

2018年3月31日(土曜日)を基準日として、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する普通株式1株につき2株の割合をもって分割しております。

##### (2) 分割により増加する株式数

- |                   |              |
|-------------------|--------------|
| ① 株式分割前の発行済株式総数   | 67,723,244株  |
| ② 今回の分割により増加する株式数 | 67,723,244株  |
| ③ 株式分割後の発行済株式総数   | 135,446,488株 |
| ④ 株式分割後の発行可能株式総数  | 300,000,000株 |

#### 3. 株式分割の日程

- |            |                 |
|------------|-----------------|
| (1) 基準日公告日 | 2018年3月14日(水曜日) |
| (2) 基準日    | 2018年3月31日(土曜日) |
| (3) 効力発生日  | 2018年4月1日(日曜日)  |

#### 4. その他

- (1) 上記の株式分割に伴い、会社法第184条第2項の規定に基づき、2018年4月1日(日曜日)をもって、当社定款第6条の発行可能株式総数を1億5,000万株から3億株に変更しております。
- (2) 資本金の額の変更  
今回の株式分割に際して、資本金の額の変更はありません。
- (3) 1株当たり情報に及ぼす影響  
株式分割による影響は、1株当たり情報に関する注記に反映されております。

## 個 別 注 記 表

### 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### 1. 資産の評価基準および評価方法

##### (1) 有価証券の評価基準および評価方法

① 子会社株式および関連会社株式 総平均法に基づく原価法

② その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定)

時価のないもの

総平均法に基づく原価法

##### (2) たな卸資産の評価基準および評価方法

① 商品および製品・仕掛品・原材料および貯蔵品

主として移動平均法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

② ゲームソフト仕掛品

ゲームソフトの開発費用(コンテンツ部分およびコンテンツと不可

分のソフトウェア部分)は、個別法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により

算定)

##### (3) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産 (リース資産を除く)

建物(建物附属設備を除く)は定額法、建物以外については定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	3～50年
アミューズメント施設機器	3～20年

② 無形固定資産 (リース資産を除く)

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法、オンラインコンテンツについては見積サービス提供期間(2～3年)に基づく定額法を採用しております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。ただし、リース契約上に残価保証の取決めのある場合においては、当該残価保証額を残存価額としております。

#### (4) 引当金の計上基準

##### ① 貸倒引当金

売上債権および貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### ② 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に充てるため、当事業年度末までに支給額が確定していない従業員賞与の支給見込額のうち、当事業年度に負担すべき額を計上しております。

##### ③ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(8年)による定額法により費用処理しております。また、数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間の年数(8～14年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

#### (5) 収益の計上基準

##### ゲームコンテンツの収益認識

顧客に販売したゲームコンテンツのうち、未提供のゲームコンテンツについては、その収益計上を提供時まで繰延べております。

#### (6) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異および未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

#### (7) 消費税等の会計処理

##### 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。



## 貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額		14,929 百万円
減価償却累計額には、減損損失累計額が含まれております。		
2. 保証債務		
当社は、次の会社の金融機関からの借入金および仕入債務に対して、次のとおり債務保証を行っております。なお、CE・ヨーロッパLTD. に対する保証限度額は15百万ユーロであります。		
	株式会社カプトロン	5,094 百万円
	CE・ヨーロッパLTD.	95 百万円
	カプコン U. S. A., INC.	78 百万円
3. 関係会社に対する金銭債権債務		
	短期金銭債権	11,246 百万円
	長期金銭債権	1,773 百万円
	短期金銭債務	4,893 百万円
	長期金銭債務	21 百万円

## 損益計算書に関する注記

1. 関係会社に対する取引高		
	売上高	28,004 百万円
	仕入高	2,611 百万円
	営業取引以外の取引	444 百万円
2. 売上原価に含まれている収益性の低下に伴う簿価切下額は次のとおりであります。		4,971 百万円

## 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類および株式数	
普通株式	12,978,644 株
(注) 当社は、2018年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、当該注記に記載している事項は株式分割前の株式数を基準としております。	

## 税効果会計に関する注記

繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
賞与引当金	803 百万円
退職給付引当金	717 百万円
役員退職慰労金	103 百万円
たな卸資産	1,509 百万円
前受収益	377 百万円
関係会社株式	868 百万円
無形固定資産	147 百万円
繰延収益	806 百万円
その他	800 百万円
小計	6,133 百万円
評価性引当額	△1,365 百万円
繰延税金資産の合計	4,768 百万円
繰延税金負債	
たな卸資産	△1,123 百万円
その他	△45 百万円
繰延税金負債の合計	△1,168 百万円
繰延税金資産の純額	3,599 百万円

## 関連当事者との取引に関する注記

### 子会社

属性	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
子会社	株式会社カプトロン	大阪市中央区	1,640 百万円	不動産の賃貸および管理	100.0	兼任 2名	事業所等の賃借	事業所等の賃借	1,468	差入金	1,773
								債務保証	5,094	-	-
子会社	カプコン U.S.A., INC.	米国カリフォルニア州サンフランシスコ市	159,949 千米ドル	家庭用ゲームソフトの開発および販売	100.0	兼任 4名	当社製品の販売、ゲームソフト開発の委託および受託	販売ロイヤリティの受取等	11,423	売掛金	6,905
								販売債権の回収代行	4,879	未払金	3,726
								ゲームソフト開発の受託	1,523	その他(流動資産)	586
										前受金	484
子会社	CE・ヨーロッパ LTD.	英国ロンドン市	1,000 千英ポンド	家庭用ゲームソフトの販売	100.0	兼任 3名	当社製品の販売	販売ロイヤリティの受取等	5,446	売掛金	3,408

(注) 取引条件および取引条件の決定方針等

上記の取引につきましては、市場価格等を参考に決定しております。

## 1 株当たり情報に関する注記

- |               |         |
|---------------|---------|
| 1. 1株当たり純資産額  | 677円26銭 |
| 2. 1株当たり当期純利益 | 108円32銭 |

(注) 当社は、2018年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。このため、2018年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益を算定しております。

## 重要な後発事象に関する注記

### 株式分割

当社は、2018年3月6日開催の取締役会決議に基づき、2018年4月1日付で株式分割を行っております。

#### 1. 株式分割の目的

投資単位当たりの金額を引き下げることにより、当社株式の流動性の向上と投資家層の拡大を図ることを目的としております。

#### 2. 株式分割の概要

##### (1) 分割の方法

2018年3月31日(土曜日)を基準日として、同日最終の株主名簿に記載または記録された株主の所有する普通株式1株につき2株の割合をもって分割しております。

##### (2) 分割により増加する株式数

- |                   |              |
|-------------------|--------------|
| ① 株式分割前の発行済株式総数   | 67,723,244株  |
| ② 今回の分割により増加する株式数 | 67,723,244株  |
| ③ 株式分割後の発行済株式総数   | 135,446,488株 |
| ④ 株式分割後の発行可能株式総数  | 300,000,000株 |

#### 3. 株式分割の日程

- |            |                 |
|------------|-----------------|
| (1) 基準日公告日 | 2018年3月14日(水曜日) |
| (2) 基準日    | 2018年3月31日(土曜日) |
| (3) 効力発生日  | 2018年4月1日(日曜日)  |

#### 4. その他

- (1) 上記の株式分割に伴い、会社法第184条第2項の規定に基づき、2018年4月1日(日曜日)をもって、当社定款第6条の発行可能株式総数を1億5,000万株から3億株に変更しております。
- (2) 資本金の額の変更  
今回の株式分割に際して、資本金の額の変更はありません。
- (3) 1株当たり情報に及ぼす影響  
株式分割による影響は、1株当たり情報に関する注記に反映されております。

### 連結子会社の吸収合併

当社は、2018年1月31日開催の取締役会において、当社の連結子会社である株式会社カプトロンを吸収合併することを決議し、同日付で合併契約書を締結いたしました。この契約に基づき、当社は2018年4月1日付で株式会社カプトロンを吸収合併いたしました。

#### (1) 取引の概要

##### ① 結合当事企業の名称およびその事業の内容

結合当事企業の名称：株式会社カプトロン  
事業の内容：不動産の賃貸および管理

##### ② 企業結合日

2018年4月1日

##### ③ 企業結合の法的形式

当社を存続会社とし、株式会社カプトロンを消滅会社とする吸収合併

##### ④ 結合後企業の名称

株式会社カプコン

##### ⑤ その他取引の概要に関する事項

経営資源の集中と有効活用を図るとともに、当社グループ全体の経営効率向上を目的に事業再編の一環として行っております。

#### (2) 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」および「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理する予定であります。